７　番　瀬　　戸　　受付番号５番、質問議員７番、瀬戸伸二。

件名、「民有地活用を積極的に」。

（仮称）山北スマートＩＣの開通後の魅力あるまちづくりとして、民有地の活用が不可欠ではなかろうかと考える。

行政は、むやみに民有地を干渉することはできないと承知しているが、高齢化が進む当町において、地権者の意思を確認しつつ民有地活用を検討し、町の活性化を図る必要があると考え質問する。

１、（仮称）山北スマートＩＣ開通に向けての周辺土地利用について、清水あり方研究会では、町に提案書を提出したと聞くが町としての取扱いはどうなっているのか。

２、現在、河内川沿い農地には遊休地が多く見られるが、「道の駅」及び「ふれあいビレッジ」を含めた有効活用を町として考えてみてはどうか。

３、町内全域で増えるであろう耕作放棄地や雑木林化された山林の地権者と、活用プランの提案等意見交換をしていくべきと考えるがどうか。

以上です。

議　　長　　答弁願います。

町長。

町　　長　　それでは、瀬戸伸二議員から「民有地活用を積極的に」についての御質問をいただきました。

初めに、１点目の御質問の「（仮称）山北スマートＩＣ開通に向けての周辺土地利用について、清水あり方研究会では、町に提案書を提出したと聞くが町としての取扱いはどうなっているのか」についてでありますが、清水あり方研究会は、平成２９年度に今後の清水地区のあり方について検討するために設立された地域住民で構成される組織であります。

この研究会では、（仮称）山北スマートＩＣの開設や河内川清水ふれあいビレッジの復旧など、清水地区が大きく変わるこの時期において、清水地区の将来のあるべき姿について、協議を重ねられてきました。

そして、これまでの議論を「清水地区地域経営基本方針」としてまとめ上げ、令和３年９月24日、町に対して、この基本方針が提出されました。

この基本方針には、河内川ふれあいビレッジ、道の駅山北、及び周辺農

地を活用して、地域の拠点となる体験交流拠点施設を整備する考え方などが示されております。

現在、町では、「（仮称）山北スマートＩＣ周辺土地利用構想」に示した土地利用展開イメージの実現に向けて、検討を進めておりますが、清水あり方研究会の基本方針に示された事業提案にも関わり深い部分がありますので、今後も意見交換などを行いながら、スマートＩＣ周辺の土地利用を検討していきたいと考えております。

次に、２点目の御質問の「現在、河内川沿い農地には遊休地が多く見られるが、『道の駅』及び『ふれあいビレッジ』を含めた有効活用を町として考えてみてはどうか」についてでありますが、清水あり方研究会が策定した「清水地区地域経営基本方針」では、河内川ふれあいビレッジの上流側やその対岸の農地を収穫体験や会員制農園として活用する考え方が示されております。

そして、町が策定した「（仮称）山北スマートＩＣ周辺土地利用構想」の土地利用展開イメージにも河内川ふれあいビレッジや道の駅と連携した農業体験、自然学習の考え方を示しております。

農地を活用するためには、農地法などの法規制の課題もありますが、清水あり方研究会や土地所有者などの意見を伺いながら、河内川沿いの農地の活用について検討してまいります。

次に、３点目の御質問の「町内全域で増えるであろう耕作放棄地や雑木林化された山林の地権者と、活用プランの提案等意見交換をしていくべきと考えるがどうか」についてでありますが、まず、農地を農地以外で利用したり、他人に賃貸、譲渡したりする場合には、農業委員会の審議を経て、農地法の許可を受けることが必要です。また、農振農用地につきましては原則、農地以外の利用は認められません。

しかし、近年、本町においても耕作放棄地が増加傾向にあることから、農業委員会では毎年農地パトロールを実施しております。具体的には、農業委員の皆さんが現地調査により耕作放棄地を洗い出し、その土地所有者に対して、営農意思の確認や賃貸・譲渡等の意向調査を行い、個々の問題等を解決し耕作放棄地の解消を図るものです。

定住希望者の中には新規に農業をやってみたいという方も増えておりますので、就農支援の相談や農地のあっせん等にも対応しております。

なお、雑木林化された山林については、場所や面積にもよりますが、水源の森林づくり事業や森林環境譲与税を活用した事業によって間伐等の森林整備が可能ですので、山林所有者と十分な意見交換を行い、適正な取組により本町が持つ貴重な資源である森林環境の保全・再生を推進していきたいと考えております。

議　　長　　７番、瀬戸伸二議員。

７　番　瀬　　戸　　７番、瀬戸です。

新東名は開通に向けて着々と工事が進んでいるということで、インターチェンジの開通を待つばかりというような状況にはなっているんですが、現在のところ、まだその土地周辺の活用をどのようにするか、午前中の遠藤議員の質問にもあったように、町長答えられていますが、インターチェンジの周辺の構想という部分が重要課題だというようなお話もされていますが、現在のイメージとして、どのようなデザインを持っているのか、ちょっと教えていただければと思います。

議　　長　　企画政策課長。

企 画 政 策 課 長　　スマートインターチェンジの周辺土地利用構想の関係でございますけれども、現在、土地利用構想の中で示されている五つの展開イメージの中で優先順位をつけて検討を進めているところでございます。優先順位の高いものといたしまして、ウエルカムサインの設置、それと造成法面への植樹等による景観整備、あとオアシス公園のリニューアルと道の駅の機能充実、この４点について、庁内検討会議と若手中心のプロジェクトチームで検討を進めてございます。

今年度の実績といたしましては、プロジェクトチームで検討していただいた内容を報告書としてまとめ上げました。それと、ウエルカムサインの設置とオアシス公園の改修の関係。それと、道の駅の道路の反対側からの眺望スポット、新たにできる河内川橋、立派な景観の橋なんですけれども、そちらの橋を望める眺望スポット。この今申しました三つについて、構想図というんですかね、鳥観図と言うんですかね、そういうものを今年度作成

をさせていただいたところでございます。

議　　長　　瀬戸伸二議員。

7　番　瀬　　戸　　今、御答弁いただいた内容については、12月にプロジェクトチームの結果ということで総務常任委員会でお伺いさせていただいたんですが、まず、このプロジェクトチーム設置の目的のところに、既存概念にとらわれない斬新かつ柔軟な発想による意見交換や具体的な検討を目標として山北スマートインターチェンジの土地利用構想プロジェクトチームを設置というお話になっているんですが、文章に書かれているんですが、内容を見ていくと、確かに斬新な部分もあるんですけれど、何か予算に忖度したような意見が主になって、何か斬新かつ、という部分が消されているんじゃないかというような感じを受けるんですが、その辺いかがでしょうか。

議　　長　　企画政策課長。

企画政策課長　　プロジェクトチーム、そもそもの設立のきっかけというのは、当初課長レベルの会議で検討しようじゃないかということで話を進めておりました。そうした中で、課長クラスとなりますと、今議員さんおっしゃるように、予算の関係ですとか、あるいは許認可の関係ですとか、そういった部分でかなり一歩引いてしまった中で検討しているという部分がどうしても出てきてしまいます。そういった経過の中で、じゃあもうちょっと若手の職員に任せてみようかというような形でプロジェクトチームを設立させていただきました。

今、お話のそのプロジェクトの検討の中で、やはり財政的な部分ですとか許認可の関係ですとか、やっぱり引いてる部分があるんじゃないのというような御指摘だというふうに思うんですけれども、やはり町役場の行政マンとして、その部分というのは、どうしても全く切り離して検討するというのは非常に難しい部分がございますので、ただ、そういった中で、我々管理職よりも若手職員のほうが我々にはない発想を持っていろいろアイデアを出していただきましたので、そういった部分については、私どもの事務局のほうとしては、非常に有意義なプロジェクトチームだったのかなというふうに認識してございます。

議　　長　　瀬戸伸二議員。

7　番　瀬　　戸　　ちょっとあり方のほうからやろうかなと思ったんですけど、こっちが先に

なっちゃったんですけど、まず御提案いただいたウエルカムサイン、デザインについては、異論はないんですが、むしろ、これを公募したほうがいいんじゃなかろうかなと私は思うんですよ。なぜならば、インターの存在を町内外に示すことができるんじゃなかろうかなと。

それと、もう一つ、１月に山北高校生のほうから提案がありました。D52山北券、それを副賞のような形で町内で使える商品券。もしくは、中川温泉の宿泊券等を副賞としてつけた場合、また町の経済効果も若干ではあるが上がるような気配もしますので、その公募という方法を考えることはできるでしょうか。

議　　長　　企画政策課長。

企画政策課長　　ウエルカムサインの公募という御提案と思うんですけれども、現在、先ほど申しましたようにウエルカムサインのデザインを載せた構想図が完成いたしましたので、それをまずは地域の方ですとか町民の方に見ていただいて、その中でいただいたアイデア等あれば反映をしていきたいというふうには考えてはございますけれども、皆さんに、広く町民の方に公募をしていくということは、今後の検討という形にさせていただきたいと思います。

議　　長　　瀬戸伸二議員。

７　番　瀬　戸　　じゃあ、ウエルカムサインについては、公募はしないという形でよろしいですか。

議　　長　　企画政策課長。

企画政策課長　　公募について、今後検討させていただきたいというふうに思います。

議　　長　　瀬戸伸二議員。

７　番　瀬　戸　　それともう一つなんですが、今仮称となっています、山北インターチェンジ。正式名称の決定というのはいつ頃を予定されているんでしょうか。

議　　長　　企画政策課長。

企画政策課長　　正式名称の決定をいつ頃かという御質問なんですけれども、時期はまだ決めてはおりません。ただ、近隣の綾瀬スマートインターチェンジというスマートインターチェンジがあるんですけれども、そちらは、供用開始の大体１年前ぐらいに、その名称についての意見募集等をやっておりますので、ですので、供用開始のおおむね１年前ぐらいにどこのインターでも名称を決め

てございますので、そういったことを参考にしながら時期については決定していきたいというふうに考えております。

議　　長　　瀬戸伸二議員。

７　番　瀬　　戸　　その名称についても今意見を伺ってという話でしたけど、公募という部分は考えていませんか。

議　　長　　企画政策課長。

企画政策課長　　スマートインターチェンジの名称の公募の関係なんですけれども、一つは、この名称については、まずは地区協議会の中で検討するような形になってございます。ですので、地区協議会の中でいろいろな意見をいただいて、名称を決めていただくという方法がまず一つございます。それとは別に、一般に広く公募をかけて、その公募したものについて地区協議会の中で諮っていくというようなやり方もございますので、基本的には町民の方から何らかの意見を伺った中で名称については決めていきたいというふうに考えております。

議　　長　　瀬戸伸二議員。

７　番　瀬　　戸　　質問事項の１番のほうのあり方研究会のほうのお話をさせていただきますが、まずコンセプトが農業・食・清水を堪能できる体験型農園リゾートというコンセプトを持たれて、これを提案されているようなんですが、私自身もこのダイジェスト版しかないですが、100 ページも及ぶ文章が出されたということを聞いております。まずコンセプトについて、町と、相違点、または共通点そういうものがあるようでしたらどこが共通点なのか、どこが相違点なのか、あるんでしたら教えていただきたいと思います。

議　　長　　企画政策課長。

企画政策課長　　町のスマートインターの土地利用構想の関係と、あり方研さんのこの経営基本方針というのは、非常に関連している部分が多くございます。あり方研さんのほうでもインターの周辺、インターの供用開始を見据えた中で、ふれあいビレッジ、道の駅、それとビレッジの上流側にあります農地、こういった部分を活用しながら、地域の地域振興も図っていこうというような形で示されております。

それと一方、町のスマートインターの土地利用構想の関係も、これも繰

り返しになりますけれども、ビレッジ、道の駅、それとあと河川敷にありますオアシス公園、その辺りをメインに優先的にやっていこうかなということで非常に共通してる部分は多いと思います。

ただ、あり方研さんのほうで、一つ若干ちょっと町のほうとの考え方が違うのが、道の駅を移転をしたいというような御計画で報告書のほうには記載してございますので、その部分については町のほうの考え、考えというか計画と異なっている部分というふうに認識してございます。

議　　長　　瀬戸伸二議員。

７　番　瀬　　戸　　あと、このあり方研さんのほうの総合的評価という部分については、どのようにお考えになってますでしょうか。

議　　長　　企画政策課長。

企画政策課長　　総合的評価というよりも、繰り返しになりますけれども町の考えと非常に共通してる部分がありますので、今後、先ほど町長答弁で申しましたように、あり方研さんを含めて清水地区の方々と町の考えと、あと地元で考えられた、この基本方針のほうの考え方を意見交換しながら、インター周辺の土地利用展開を図っていきたいというふうに考えてございますので、特に評価ですとかそういう部分では差し控えさせていただきますけれども、引き続き、地域の方の意見を伺いながらインター周辺の土地利用については進めていきたいというふうに考えております。

議　　長　　瀬戸伸二議員。

７　番　瀬　　戸　　町のほうもあり方研のほうも触れていない部分が、清水小・中学校の跡地、あと幼稚園の跡地、その部分が全然触れてないんですが、現在、どのようにお考えになっているでしょうか。

議　　長　　企画政策課長。

企画政策課長　　今触れてないというふうなお話だったんですけれども、町の土地利用構想中の展開イメージの中に、清水小・中と保育園の関係の跡地の利用の関係というのが載せてございます。その中で、一方で、清水のこの基本方針の中にも、清水小・中の跡地利用について載っかっている部分がございまして、清水のほうでは、清水小・中の跡地を利用して、高齢者住宅というか、住宅をつくるんだというようなことがこの基本方針の中では載せてあるところ

でございます。

一方、町のほうの土地利用の基本方針のほうでは、これはあくまでイメージの一つなんですけれども、校舎を利用して体験学習、農業体験の関係の座学をやるといったようなことですとか、あと、様々な体験事業というんですかね、そういったものを実施していく施設として跡地を利用していくというようなことは載せてございますので、この部分についても町の考えと清水のあり方研さんのお考えというのは共通している部分があるというふうに認識しております。

議　　長　　瀬戸伸二議員。

7　番　瀬　　戸　　それでは、２番目の質問のほうなんですが、ふれあいビレッジ、道の駅を含めた有効活用をということで、先ほど、課長のほうからですと、道の駅の所在の在り方。たしか、あり方研さんのほうはもっと上のほうに大きな駐車場も 80 台でしたっけ、何か駐車場も大きなものを造るような計画を立てられていると思うんですけれど。一応、道の駅はやっぱり駐車場が狭いと、それがネックだと。もう一つは、ふれあいビレッジは災害の問題があると。やはりそれがネックになると。やっぱりそのネックをどのように解消した上での土地利用になるのかということが、町のほうの計画だと見えてこないんですが、町はどのように計画されているでしょうか。

議　　長　　企画政策課長。

企画政策課長　　ふれあいビレッジのまず関係なんですけれども、台風による大雨の関係で土砂災害に２回被災しているというような状況でございます。そういった中で、キャンプ場の中を横断している、要は水路の関係なんですけれども、その水路を直線的に河川のほうに流すような形で、キャンプ場内に土砂が流出しないような形で将来的には工事を進めていくような形で現在考えてございます。その旨は、県西土木事務所にも、一応町のほうではこういう形で考えているというような意向は伝えてございます。

それと、あともう一つ、道の駅の駐車場の関係なんですけれども、おっしゃるように現状の駐車場は非常に狭いということで、現在町のほうで考えているのは、土地利用構想の中にも載っかってはおるんですけれども、オアシス公園のところに駐車場を新たに整備したらどうかということで、整備して

駐車場の不足分については確保をしていきたいというふうな形で考えてございます。

議　　長　　瀬戸伸二議員。

7　番　瀬　　戸　　スマートインターのやっぱり有効活用とすれば、道の駅だと思うんです。目的を道の駅で来てもらうような形が一番ベターかなと思うんですけれど、こちらのプロジェクトのほうでつくられた部分では、オアシス公園を目安に来てもらうというような展開も出てきているんですけれど、オアシス公園の目玉となり得る部分はスノボーでしたっけ、ああいうものの施設になるのでしょうか。それとも、もっとほかに目玉となるような施設を設ける計画があるんでしょうかね。

議　　長　　企画政策課長。

企画政策課長　　オアシス公園の検討状況についても、これも以前お話ししたかと思うんですけれども、一つは先ほど申しましたように、基本的には駐車場の不足を補うという部分が一つございます。

それと、あと公園の主な目的として、子どもさんががっちり遊ぶような公園がいいのか、あるいはインターを降りて疲れているドライバーさんいらっしゃいますので、そういったドライバーさんが休めるような施設整備がいいのかということで内部でもいろいろ考えてはございますけれども。現在まだがっちりとこういう形で整備するというのはまだ決まってはおりませんけれども、お子さんが遊べて、あとお父さん、お母さんがちょっと体を休められるような施設があればいいのかなということと。あとペットのいらっしゃる方がいられますのでドッグランもあったほうがいいのかなですとか、いろいろ現在考えているところでございます。

オアシス公園のところに車をとめて、そこから公園の中を軽く歩いて、道の駅に行っていただいて、飲食をしていただいて休んでいただくといったようなイメージでオアシス公園の整備については考えてございますので、また引き続きちょっと地元の方の意見等も聞きながら検討を進めていきたいというふうに考えています。

議　　長　　瀬戸伸二議員。

7　番　瀬　　戸　　オアシス公園、いろいろとこの間の部分では、いろんな設備をするような

形で駐車場も広いという形になってますけれど、実際にお客様を呼び込む手段として、何か方法はあるんでしょうか。インターを使ってお客様を呼び込むという。

議　　長　　企画政策課長。

企画政策課長　　オアシス公園にお客様を呼び込む方法なんですけれども、インターを降りてやまなみ橋を渡って、県道にはぶつかるわけでございますけれども、そこからオアシス公園の駐車場のほうに誘導するような道路案内板、それが一つは考えられます。それとあと、そこの交差点部分の誘導も必要なんですけれども、それより事前にそういった誘導看板を設置して休憩スポットとしてオアシス公園を使っていただくような形で誘導してきたというふうに考えています。

議　　長　　瀬戸伸二議員。

７　番　瀬　戸　　ごめんなさい、ちょっと質問の趣旨が違いました。オアシス公園の魅力をもっと引き出す方法というのは何かあるんでしょうか。

議　　長　　町長。

町　　長　　まず、スマートインターの工事は、当初令和２年というようなものが令和５年ということは、開通が令和６年の３月開通するだろうということで、今、計画をしております。そうしたときに、実際問題としては、例えばオアシス公園の左側にあるインクラインは大体撤去するのに２年かかるというふうに言われています。ほかのところもそうなんですけども、かなりいろいろなところが、実際問題はいろんなところを工事をかけるのに令和８年、６年、７年、８年にならないと本当は手がつけられないんじゃないかというふうに危惧しております。

そういう中でできるところというのは、例えば看板であったり、あるいは道の駅であったり、オアシス公園でも道の駅に近いところは歩けるのではないかと。それから、オアシス公園そのものが河川区域になっております。ですから建物等について、かなり制限がございます。ほとんど建てれないというふうに考えております。そういったときに、やはり来ていただいて開通したときに、まずおっしゃるように道の駅が情報を取る一番のところというふうになりますので。当然、今の道の駅ではとてもその駐車スペースがないと

いうことですから、オアシス公園のほうに誘導できないかと。もちろん、ただ駐車場だけでなくて、何らかの皆さんが魅力に感じていただけるようなことをやらなきゃいけない。それがずっといくかというと、ほかの計画とのバランスで、もしかしたら駐車場を一部変えていったり、いろいろなことを考えなきゃいけない。

ですから、当初言ったように、生き物と同じでどんどん、どんどん変えていかなければいけない。大きなものをどんとつくってしまったらそれを改修するというのは、なかなか不可能ですけど、オアシス公園であれば、駐車場とかそういうのは変更も可能だろうし、また、いろいろなアイデアも出てくるんではないかというふうに思いますので、そういった意味では、今現在その想定される、これから工事が終わって撤去して、そしてその後に今度は設備をかける。例えばふれあいビレッジのところとしては、撤去してから水路を真っすぐにするような工事をやるとしても、１か月や２か月では当然できませんので、半年とかそういったようなことは当然必要でしょうし。それから今度は、そこのオートキャンプ場なり、あるいは道の駅の大型版というのも考えてますので、そういったようなのが清水のあり方検討会の中でもいろいろ検討されています。

そういった中で、それらを突き合わせしながら実際にできるかどうか、そういったことをやってかなければ、ただ、絵に描いて予算をつけたからできるんだというふうにはとてもいかないような、非常に今回の大きな工事については手順が難しいというふうに思っています。

ですから、町としては、まず来て何にもないんでは、もう来ていただけないでしょうから、そういった意味では、最低限ウエルカムサインしても何にしても、可能な限りなものについてはやりたいというふうに思っていますし、それによって、お客さんをどこに誘導して、そしてもう一度来ていただける。今度はこういうのができそうだよというようなアナウンスをしておけば、じゃあ１年後、また来てみようとか、様々なことが起こるんだろうというふうに思っています。そのときに必ずしもここはこうじゃなきゃいけないというような絶対的なものでなくて、変更可能ならある程度の小修理とか変更で可能であれば、そういったような柔軟に対応していきたいというふうに思って

おります。

議　　長　　瀬戸伸二議員。

７　番　瀬　　戸　　おっしゃっていることは十分理解しました。そうすると、道の駅も将来的に今の位置じゃなくなる可能性もあるよと捉えてもいいかなと。将来的に、現在じゃなく。あり方さんのほうが出したあの位置になるか、また別に位置かは分からないんですけど、将来的にはもっとよくなるよという判断でよろしいでしょうか。

議　　長　　町長。

町　　長　　当然、今現在、町で考えていること、それから清水のあり方研究会が考えてるところにもかなり似た部分がございます。やはり、時間をどういうふうに使っていただくか。そして、あまり混まないように誘導していきたいというところが清水あり方研究会の中でも大変出ております。農業体験であるとか、いろんな体験、あるいはその歩いていくところを絵に描いたり、様々なことをしています。私もまさしくそういうような、つまり来たからちょっと景色を見て帰っちゃう、あるいは何か物を買って帰ってしまうということではなくて、やはり山北の魅力を時間をかけて、もう一回来ていただくような、来たくなるような、そんなようなことを多分我々も考えてますし、清水の皆さんも考えているようですので、ぜひそういうような流れの中で様々な体験、そういったものに誘導していきたい。その中に一つは多少、我々とあり方が多少違うところが道の駅の問題については、当然県のほうの施設のあれになっておりますので、そういった意味では、その取扱いについては、地域とよく相談しながら、我々としてもやっていきたいというふうに思っております。

議　　長　　瀬戸伸二議員。

７　番　瀬　　戸　　分かりました。

３番目の質問にいきますが、活用プラン等、地権者と話合いを持った上で意見交換を進めていくべきじゃないかと思うんですが、答弁にもありますように、法規制が結構いろいろあると。ただ、この法規制については、法の解除の時間がかかる部分が結構あろうかと思うんです。それで、やっぱり前もってプランを先に出した上で法規制解除というふうに進めていったほうが私は今後の山北にとっていいんじゃなかろうかと思うんですが、その辺のお

考えはありますでしょうか。

議　　長　　町長。

町　　長　　おっしゃるように、とにかく当初の計画が延びています。今現在もそういった意味で撤退するのに、最初は１年と言われたのが、今２年ぐらいになって、その２年もちょっと分かりませんよ、場所によっては。だから、そういうことで、やはり瀬戸議員がおっしゃったように、様々な不確定な要素について、町は柔軟に対応をしていきたいというふうに思っておりますので、必ずしもこういうふうに決めたから、絶対そういうふうにやるということではなくて、当然、大事な町の玄関口でございますので、様々な要素を取り入れながら、皆さんの提案も真摯に聞きながら進めてまいりたいというふうに思っております。

議　　長　　瀬戸伸二議員。

７　番　瀬　　戸　　この３番目の耕作放棄地、雑木林化されたという云々については、清水に限ったことではなく、この山北の町内においても、そういう地域が結構見当たるような形になってきています。先日、このタウンニュースで、高橋連合自治会長さんが述べた言葉に、「年に数回、６人の連合自治会長が、町長、副町長、教育長と意見交換をする場があって、いい意見交換ができて風通しのいい町だよ」という意見を新聞に出されています。むしろ、今後、土地利用に関しては、この６人の連合自治会長さんの活用が重要になってこようかと思うんですけれど、逆に町のほうから土地利用についての提案などされたらどうなんでしょうか。

議　　長　　町長。

町　　長　　今のところ、まだそういったような提案というのは、あり方検討会の中と、町とのすり合わせ、まだ細かいところが相当ございますので、それらをまず優先して進めてまいりたいというふうに思っております。

議　　長　　瀬戸伸二議員。

７　番　瀬　　戸　　やっぱりこの土地に関しては情報提供が大変重要になってこようかと思いますので、やはり情報の収集の仕方も今後町としても考えていただきたいと思います。

最後になりますが、町長が４期目出馬という表明をされた中で、農業の機

械化の促進、それと森の託児所などの町の多くを占める森林を活用した新たなまちづくりというテーマを掲げられていますが、これは具体的にどういうことかお話しできるようでしたらお話しいただいて、終わりにさせていただきたいと思います。

議　　長　　町長。

町　　長　　おっしゃるように、やはり山北町、急峻な土地が多くて農業の機械化等はかなり遅れております。やらなきゃいけないということは分かっていても、なかなか進まないと。そもそも我が家でもそうですけど、山のほうに道がなければ、もうやりたくないというような、もう軽トラが入っていかなければ、もうあそこはやらないというようなところが非常に多いと。当然、それと同じように、その機械化がなかなか難しいところについては、なかなか次の後継者もやっていただけないし、どうしても困ってしまうと。それに対して、やはり機械化をいろいろな意味で進めていかなければいけないというふうに思っておりますので、自分で農業をやっていて、やはりどんどん、どんどん機械のいいものが出てくる。それらを使ってやっていくということは、当然のことだというふうに思っていますし、農林業、林業も含めてそうですけども、山北町の今耕作放棄地とか様々な問題が抱えております。そういったものについて、どういうことができるか。国のほうでも、耕作放棄地の林地化とか、そういったようなものに認めていくような里山づくりというようなことも農業新聞に出ておりました。そういったようなことをぜひやっていきたいというふうに思っておりますので。

これをやればいいということではなくて、もう皆さんの困ってらっしゃることをどういうふうにして少しでも解決できるか。そういったことをもう一度、現場に立って考えていきたいというように思っておりますので、ぜひ御理解いただければというふうに思っております。